

公式LINEで毎号配信

エントリーで5千円相当が当たる!!

(エントリーフォームは不定期配信)



全厚連 労働組合連合会

〒110-0013 東京都台東区入谷

1-9-5

TEL 03-3874-3591

FAX 03-3874-3593

発行日 毎月20日

https://www.zenkouro.org/

北厚労

ベースアップ18,500円

秋厚労

ベースアップ11,000円

初任給49,800円引き上げ

茨厚労

粘り強く交渉し3次回答引き出し

愛厚労

21,000円賃上げ

岐厚労

有給休暇2日拡大

26春闘は令和8年診療報酬改定でのベースアップ評価の見直しに伴い、賃金引上げ交渉が6月現在も継続しています。他産業では3年連続で5%以上の賃上げとなりました。医療・介護分野の人員確保や離職防止には、他産業に追いつく大幅な賃金の引き上げが必要と見られます。6月16日時点での加盟組織の回答状況をお伝えします。

(表) 秋厚労の初任給引き上げ回答の詳細

Table with 4 main sections: 医療職II (薬剤師, etc.), 医療職III (保健師, etc.), 事務職 (事務職員, etc.), and 事務職 (事務職員, etc.). Each section contains a table with columns for age (22-34) and rows for salary components (Basic, Allowance, etc.) and total salary.

労働条件の改善を!! 夜勤従事者の確保急務 賃金交渉と並行して諸要求の交渉でも前進を引き出しています。秋厚労では、継続協議を行ってきた夜勤手当について、深夜・準夜共に500円増額。現行の夜勤4回以上で交代制勤務従事者手当7,000円を支給していましたが、8回以上の場合7,000円に3,000円を加え支給とされました。当直手当についても400円引上げて看護師長7,000円、それ以外6,200円を4月に遡及して差額を6月の給与と一緒に支給となります。また、採用時の年次有給休暇を0日から10日へ拡大しました。福厚労では、2交替の夜勤手当を500円増額し8,000円を勝ち取りました。岐厚労では、労働基準法への対応と新人の休暇確保を目的に、有給休暇の付与日数を20日から22日に増やしました。職場環境の改善は、人員不足で疲弊する医療・介護現場で一層重要となっています。職員が働き続けられる労働条件を交渉で勝ち取りましょう。

男性育休、働きやすい職場へ二歩

女性委員会プレゼンツいきいきワーク学習会

6月12日、東京・入谷「日本医療労働会館」にて16県72名で女性委員会プレゼンツいきいきワーク学習会、翌日に平和委員会との合同企画で靖国神社平和ツアーを行いました。集会では基調報告のほか、「女性労働者実態調査結果から見えるもの」、「男性の育休取得について」、「更年期・介護について」のテーマで特別報告、テーマに沿ったグループワークを行いました。

妊婦に過酷な実態 あきらかに

全厚労からも多くの組合員に協力頂いた、「全労連 女性労働者の労働実態調査」及び「妊娠・出産・育児に関する実態調査」について、福島県厚生連で27年間看護師として働き現在は日本医労連女性協事務局長の齋藤由美子さんから医療産別（日本医労連集約分）の特徴を報告頂きました。

業と比較しても2・4ポイント多い結果が話されました。妊娠中の状況については、症状の多い順で、「妊娠悪阻つわりがひどい」38・1%、「切迫流産・早産」28・1%、「貧血」22・0%と続きました。「順調」と回答した割合も全産業より低く、安心して妊娠継続できる職場環境が、命を守る医療現場にもかかわらず十分に整っていない実態が明らかとなりました。

また育休休業の取得状況について正規職で高い一方、非正規では特に有期雇用で取得率が低く、有期雇用の約半数が妊娠・出産を機に退職していることが分かりました。2022年以降の育休・介護休業法改正により育休休業を「自分とパートナー双方が取得」が増加しましたが、正規19%、非正規（無期）15%



青年コーヒー財活中の新米パパ小川さん

男性看護師で1ヶ月育休取得した齋藤さんは、慢性的な人員不足により一人が長期間休むことで他スタッフへの負担の懸念「周囲に迷惑をかけるのではないか」という心理的負担から取得をためらう男性看護師も少なくないと話された一方で、女性職も理解があり実際は取得しやすい環境にあったと報告されました。

小川さんは、主に看護師・リハビリ・臨床工学士など24名が回答した男性育休取得についてのアンケート内容を紹介します。約70%が男性育休を取得しやすかつたと回答し、日数は1〜3か月の間で取られる方が多かったことなどを話されました。

また、自身の約3ヶ月間の育休休業について、成長が著しい時期を毎日一緒に過ごして一生に一度の貴重な期間となった。おむつ交換や沐浴、ミルク、寝かしつけ、病院受診などを一通り経験でき、育児スキルが身についたことで復職後も自然に育児参加できた。子どもを24時間見守ることで生命の力強さを再認識し、子どもが数時間前にはできなかったことが不意にできるようになる瞬間に立ち会えるのは、四六時中一緒にいる「育

休中」だからこその特権だと話されました。

アンケートから「休業給付金の支給が遅く数ヶ月分の貯えは必要」「急な生活リズムの変化でストレスや体調不良にも注意しかし、取得してよかったと思う」といった声も紹介され、最後に「仕事を休む制度」ではなく「家族と向き合うための制度」であり、積極的に取ってほしいと呼びかけられました。

知って欲しい更年期

楠潔代女性委員長からは自身の体調変化についての経験も含め、「更年期」時期や介護について報告しました。

更年期はホルモンバランスが乱れることで自律神経の調節が乱れ、ほてり・のぼせ・冷えなど、体にさまざまな不調が現れます。症状は100種類に及ぶともいわれており、約9割の女性が何らかの不快感を感じます。種類や強さには個人差がありますが、このような更年期のさまざまな不調を「更年期症状」仕事や家事に支障をきたしてしまうほどの重いものを「更年期障害」といいます。更年期以降もエストロゲンの減少によって女性性は骨粗しょう症や動脈硬化などのリスクが男性よりも高くなります。

楠委員長は更年期についての知識がないと症状ごとに受診する「ドクターショッピング」になりやすく、婦人科での更年期医療を受けられないまま悩む女性も少なくないと話され、体調の悪い時はお互い様の精神でみんが我慢せず、鎮痛剤に頼らず、休む職場にしていこうと呼びかけました。

ドクター山本晴義の心の相談室(20)

SNS隆盛で広がる「比較の苦しみ」



山本晴義先生

最近、メール相談などを行う中で感じるのは、失敗そのものに悩むというよりも、失敗してはいけない、周りから遅れをとってはいけないというようなプレッシャーに苦しむ人が多いということです。

現代はSNSの普及や成果主義の影響もあり、一度の失敗を人生の終わりのようにとらえてしまう傾向があります。特にSNSの影響で、私たちはかつてないほど、他者の成功や成果を目にする機会が増えています。プロジェクトの成功、転職・結婚・

出産の報告など、知人や友人、芸能人らありとあらゆる人たちの充実した日常生活の様子が手に取るようにわかります。

当然のことながら、SNSに上げられる一面は、人に見せてもよい、見せたい場面であることが多く、その裏にある苦労や失敗は見えにくいものです。しかし、それに気が付かず、自分だけが取り残されたように感じ、うまくいっていない自分が必要以上に目についてしまうのです。実際、失敗したことそのものよりも、周りは皆、順調

に進んでいるのに、自分だけが取り残されているという「比較の苦しみ」を感じていることが多いような気がします。

しかし、失敗を避けて通ることはできません。「失敗をしてしまった自分は終わって価値がない」にしないことが、その後の生き方を変えるのではないのでしょうか。そのためには、結果だけで判断しない経験をたくさん積むことが大事だと思います。

目に見える結果だけではなく、家族や友人と培ってきた関係、誰かの役に立ったという経験、勉強や仕事以外の充実した時間などがあると、たとえ仕事や勉強で失敗したとしても、自分の価値は失われなと思えるのではないのでしょうか。

健康に働き続けられる職場へ

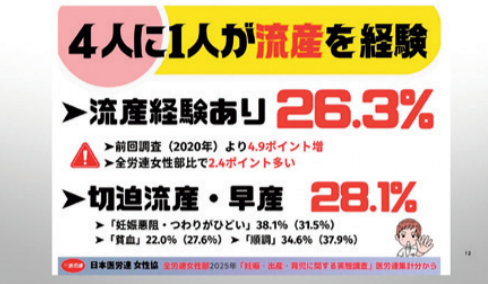
参加者からは「女性の体はホルモンバランスや体調の変化で色々な症状がある。いま休めない現状があるので、休みやすくなる職場や、人員増を組合として交渉していく必要がある」と思っていた。色々な休みや制度があることを学習して、それを材料に交渉していこう」といった発言や、「新生児の時期はすぐ終わってしまふ。1日1日を父親として、自分の子どもとの時間を大事にするべきだと思った。その時間を作るためにも、人数が少ない職場の体制を整える必要がある。更年期の職員も労り、いつでも気持ちよく休暇を取ってもらおう環境を整えて、質を上げていくことでお互い様の精神が作られるようになると思う」

といった発言がありました。松尾晃担当四役から集会争とめで、女性委員会スローガン「健康でやさしく美しく働き続けるために」は、1984年婦人集会での徳島の参加者から出た感想を取り上げて掲げてきたもの。お互い様でしっかり休んで健康でいられる社会になればと思う。1986年男女雇用機会均等法ができ、女性も男性同等に働く社会と

なった。男性も働きやすく、お互い様でしっかり休んで、健康で生き続けられる社会になっていければと思う。男女だけでなく性自認はいろいろある。その人らしく働ける職場を作るために「いきいきワーク学習会」ができたと思う。いい職場を作って、いい医療や介護を提供できる運動に発展していくことを期待したい、と呼びかけました。



妊産婦が請求した場合、深夜業(夜勤)をさせることはできない



自信につながった男性育休取得

男性の育休取得について、茨厚労から水戸支部・斎藤史哲さんと西南支部・小川誠貴さんから経験や「茨厚労における男性育休取得状況」調査の内容を報告頂きました。



集会は男性組合員も多く参加



会場後方では原爆パネル展示も行いました

頑張る仲間 各県この人

各県・現場で運動に、趣味に、仕事に頑張る人々を紹介するコーナーです。
第217回は北海道・愛知をお願いします。



北海道 川上智浩さん

中央副執行委員長と労働条件対策部長を兼務の川上智浩さんを紹介いたします。厚生連入会16年目ですが、労組歴も長く、札幌分会書記長を経て遠軽病院から中央執行委員、現在は帯広厚生病院放射線技術科に勤務しながら、札幌の会議に出席。復路はいつも21時の最終JRとタイトなスケジュールをこなしています。昨年度は新人事制度移行5年が経過したことを踏まえ制度のさらなる理解と浸透、課題抽出を目的に14分会を対象にWEB学習会の講師を務め、今後の会との協議に向けて課題を整理中です。

小学校から始めた剣道は高校まで続け3段の腕前、武道の精神がタイトな組合活動を支えているのかも。帯広へ単身赴任中ですが、これから訪れる北海道の短い夏を二人のお子様と奥さまと一緒にキャンプをすることを楽しみにしています。

愛厚労副執行委員長の増田です。普段は知多厚生病院で管理栄養士として勤務しています。当院は病院食を直営で運営しており、献立作成にも携わっています。最近は物価上昇の影響で食材費の高騰が続き、現場でも工夫が求められています。こうした影響は、私たち組合員の生活にもそのまま表れており、日々の暮らしの負担が大きくなっていると感じています。こうした現場の状況や生活の実感を大切にしながら、組合活動を通じて、働きやすく安心できる環境づくりにつなげていきたいと考えています。よろしくお願いします。



愛知 増田明啓さん

読者の声
桜が咲いて春を感じる季節。岐阜の団交ではボーナスも手当も上がらず、むしろ減額回答。心は冬にもなる。6月の団交では雨や曇りではなく晴れ間が見えたらと願う。
——今年の春闘は診療報酬改定で全国的にペア要求しているのが大丈夫ではないでしょうか。晴れ晴れとした気持ちで夏を迎えたいですね！
(KU)

で、ちよつと迷ったり考えたりしている。すぐに声をかけてください。有り難くて、とても嬉しいのと同時に、これまでも自分が後輩に対して出来ていなかったことを反省する日々。早く仕事を覚えて、皆さんに恩返ししたいです。そして、元の部署の後輩にもこの気遣いを広げていきたいと思っています。
——申し送りや仕事を教えることととても大事だと思えます。今の気持ちをこれから持ち続けていきましょう。
(OG)

とは出来ず座って行動する方が安全であることを体感しました。体験することで見直せる行動があったのでお勧めします。
——ありがとうございます。とっさの時に少しでも動けるようにしておきたいですね。
(EN)

他にはない大きな保障

医労連共済の魅力のひとつに入院給付・休業給付があり、医労連共済加入者の多くがセット7型+医療16口で加入して、入院1万円・休業5千円の保障を準備しています。しかし病気・ケガの保障は入院給付・休業給付ではありません。医労連共済は後遺障害の保障が魅力です。民間保険では対象とならない「透析開始」「子宮全摘」「ペースメーカー植込み」「胆嚢摘出」なども対象となります。後遺障害は死亡保障の額を最高保障額として等級で給付額が決まります。同じ等級でも加入型式で給付額は変わります。加入の際の参考にしてください。



労働組合用語集

産別さんべつ：産業別労働組合のこと。同じ産業に従事する労働者によって、企業の枠を超えて組織される労働組合。日本の医療産業別労働組合は、全厚労も加盟している「日本医療労働組合連合会（日本医労連）」。7全国組合・47都道府県医労連で構成され、企業規模の違いをこえて医療や福祉の職場・関連する事業所ではたらく労働者約17万人が加入している。

教宣部のつぶやき

いま「押し活スタイル」で、国会前や街頭デモに出る流れが広がっている。早速自分もダイソーで巨大うちわを買って、ポスカで「STOP WARS」とデコ、ペンライトもネットで購入。4本買った！本は友だちにあげた。このままだとなんだか息苦しい社会が来そうだが、元氣な限り声は上げたい。
(MT)

まちかど珍画報 カクイシジュンステ



どんな場でも暴力に断固NO!

今月はキーワードクイズ

【問題】4月入職の新卒社員の給料。報道では企業の7割近くが人材確保や物価高への対応を背景に、引き上げを実施・予定しています。

答え『しよにん□□□』

紙面をヒントに答え(7文字)を、右QRコードまたは下記あて先へお送りください。



当選者(読者の声掲載者含む)15名様に図書(クオ)カードを差し上げます。答えと本紙の感想などを添えて下記あて先へお送りください。当選の結果は発送をもって代えさせていただきます。3月号の答えは「カクイシジュンステ」で、当選倍率は5・1倍(クロスワード・聞かせて、読者の声計15名当選)でした。

女性委員会・平和委員会共同企画靖国平和ツアーを開催 「今だからこそ平和を考えたい」



真夏を思わせる暑さの中を歩く



熱心に耳を傾ける参加者

参加者は3班に分かれ、ガイド（医療連OB池田武士さん、茨厚労安本真理子さん、榎田ふみ本部書記）の案内を受けながら靖国神社境内を巡り、創建の歴史や戦争との関わり、境内に設置された記念碑などについて説明を受けました。また遊就館では、戦争に関する資料や展示を見学し、戦争が社会や人々の暮らしに与えた影響について考えました。

全厚労女性委員会は6月12～13日に「いきいきワーク学習会」を開催しました。2日目には平和委員会との共同企画として「靖国平和ツアー」を実施し、全国から参加した仲間が靖国神社と遊就館を見学しながら平和について学びました。

ながら見学することで歴史をより深く理解することができた「平和について改めて考える貴重な機会になった」などの声が寄せられました。戦後80年を迎えるなか、全厚労はこれからも平和を守る取り組みを進め、医療・介護・福祉に携わる労働組合として「いのち・くらし・平和」を守る運動をすすめていきます。



艦上爆撃機「彗星」



大鳥居の手前で、創建の歴史や戦争との関わりを学ぶ参加者



長厚労リハセンター支部の仲間

10年前高校生の時に修学旅行で沖縄に訪れた事があり、今回訪れた施設・場所に来た記憶はありません。しかしその時の記憶は平和学習もしましたが、楽しい記憶しか残っていないのが正直なところ。今回山田さんのガイドで沖縄の歴史、戦争の悲惨さについて聞き、直接目で見ることによって戦争はしてはいけない、愚かな行為であると再認識しました。こういった平和学習は、忘れた頃に再度行い、歴史

日本医療連第34回平和ツアーin沖縄には、全厚労からは長厚労鹿教湯三才山リハセンター支部や熊谷総合病院労組などから9名が参加しました。長厚労参加者の感想を紹介します。

沖縄で学んだ戦争の悲惨さと平和の尊さ

風化させてはいけないと強く感じます。最後に、私たちは平和のうえに生活出来ていることを感謝しなくてはならないと思いました。
山崎峻一さん
(鹿教湯三才山リハ労組)



戦跡を見学し戦争の実相を学ぶ参加者

加し、戦争の悲惨さや平和の大切さについて改めて考える機会となりました。これまで戦争については学校の授業や本で学んできましたが、実際に戦跡や資料館を訪れることで、当時の人々が経験した苦しみや恐怖をより身近に感じることができました。特に戦時中実際に使われていた鍾乳洞の中に入り、酸素の薄い薄暗い鍾乳洞のなかで今の医療現場では考えられないような治療が行われていたことを知りとても印象に残りました。正しい戦争なんてないと言ったことと平和な日常が当たり前ではないことを実感し、現在の生活のありがたさを改めて感じました。

3日間を通して戦争の悲惨さを学びました。最初は沖縄に行ってみようというだけの動機で参加しましたが、実際に壕やガマに入りそこで生活や、劣悪な環境での医療行為を行っていたことに衝撃を受けました。自分が医療処置を行う時にあんな暗いところでは正確なことはできないなと思いましたが、麻酔等医薬品が不足した状態で重症の兵士の処置や看護をしていくことは本当に辛く苦しいことだと思いました。そして戦争から約80年が過ぎても戦争の影が残っていることが衝撃的でした。3日間でも多くのことを学ぶことができてもいい経験となりました。

ただ普通の暮らしをしてきた住民が戦争に巻き込まれた事実、今でもそのような悲惨な出来事を繰り返している事実があり、その戦争は起こさなければならぬのかということをすべての人類が考え直さなければならぬと感じました。そして改めて戦争で亡くなられた方々に追悼の意をこめて生きていかなければならない、戦争を繰り返してはならないと強く思うことができました。

戦争から約80年が経過した現在も世界各地で武力紛争が続いています。戦争の実相を学び、平和の尊さを次の世代へ語り継ぐことの重要性を改めて考える機会となりました。

目をそむけてはいけない残酷な事実

平和の尊さを学ぶ貴重な経験

今回の沖縄平和ツアーに参加



かつて沖縄の方々が歩いた山道に行く